

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【公開番号】特開2004-43567(P2004-43567A)

【公開日】平成16年2月12日(2004.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2004-006

【出願番号】特願2002-200876(P2002-200876)

【国際特許分類第7版】

C 0 8 L 77/00

C 0 8 J 5/00

C 0 8 K 5/00

【F I】

C 0 8 L 77/00

C 0 8 J 5/00 C F G

C 0 8 K 5/00

【手続補正書】

【提出日】平成17年7月8日(2005.7.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ポリアミド66単位90～99.9重量%とポリアミド6単位0.1～10重量%とからなり、かつ末端がモノカルボン酸あるいはモノアミンで1～70(ミリ当量/Kg)封鎖されている共重合ポリアミド(A)100重量部に対して、ヒンダードフェノール類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも1つの有機系熱安定剤(B)0.01～1重量部を含有することを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物。

【請求項2】

ポリアミド66原料90～99.9重量%、およびポリアミド6原料0.1～10重量%からなるポリアミド原料100重量部に対し、モノカルボン酸あるいはモノアミン0.007～0.4重量%を配合して重縮合を行い、共重合ポリアミド(A)を得、該共重合ポリアミド100重量部に対してヒンダードフェノール類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも1つの有機系熱安定剤(B)0.01～1重量部を含有させることを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物の製造方法。

【請求項3】

請求項1に記載の共重合ポリアミド樹脂組成物から得られることを特徴とする射出成形品。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

(1)ポリアミド66単位90～99.9重量%とポリアミド6単位0.1～10重量%とからなり、かつ末端がモノカルボン酸あるいはモノアミンで1～70(ミリ当量/Kg)封鎖されている共重合ポリアミド100(A)重量部に対して、ヒンダードフェノール

類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも1つの有機系熱安定剤(B) 0 . 0 1 ~ 1 重量部を含有することを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物、

(2) ポリアミド 6 6 原料 9 0 ~ 9 9 . 9 重量%、およびポリアミド 6 原料 0 . 1 ~ 1 0 重量%からなるポリアミド原料 1 0 0 重量部に対し、モノカルボン酸あるいはモノアミン 0 . 0 0 7 ~ 0 . 4 重量%を配合して重縮合を行い、共重合ポリアミド(A)を得、該共重合ポリアミド 1 0 0 重量部に対して、ヒンダードフェノール類あるいはホスファイト類から選ばれる少なくとも1つの有機系熱安定剤(B) 0 . 0 1 ~ 1 重量部を含有させることを特徴とする共重合ポリアミド樹脂組成物の製造方法、

(3) 上記(1)に記載の共重合ポリアミド樹脂組成物から得られることを特徴とする射出成形品、

である。以下、本発明について詳細に説明する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

本発明におけるポリアミド 6 原料は - カプロラクタムあるいはそのオリゴマーである。ポリアミド 6 原料は共重合ポリアミド原料中 0 . 1 ~ 1 0 重量%であり、好ましくは 0 . 5 ~ 5 重量%、更に好ましくは 0 . 5 ~ 3 重量%である。本発明における末端封止剤は前記共重合ポリアミド原料中 0 . 0 0 7 ~ 0 . 4 重量%であり、好ましくは 0 . 0 1 ~ 0 . 3 5 重量%であり、更に好ましくは 0 . 0 5 ~ 0 . 2 重量%である。